

審査員総評

【今瀬審査員】

皆さん長時間お疲れ様です。

全体的に補助金事業は一部途中で名前も変わりましたが、結構長く行われている全国的にですね、こういった補助事業が結構継続してなくてというのは、そんなに今ないんですよね。そういう面ではすごく貴重だと思います。特に協働を掲げて続けてるっていうのも、なかなか、今だんだんなくなってきてるっていうところですね。

そういう意味で今日多くの団体さんがありましたが、後半の3団体の中にも実質的には初めの一步部門ですかね立ち上がってやるんだよってスタートアップするんだよっていう団体さんもあったかと思えますけれども、やはり、この補助事業が今後も継続していくためにはですね、やはり普通の補助金事業ではない、委託事業ではないっていう特徴を、お互いに市民側、行政側がいかにかに本当にちゃんと成果を出せるのかっていうところに、おそらくかかっているんだろうかなとは思いますが。それで後半の3団体さんの中の、例えば選挙の関係の団体さんの事業においては、例えば、ポストカードのポスターを展示するって言っても現実的に過去のポスターを一時期でもはっといたら、法律には違反しないかもしれないけれども次の選挙が来年あるよって、その方が前に出てたよっていうのを掲げられるだろうかとか現実的にはいろんな問題が難しい問題が出てくるかなとは思いますが。あるいは、行政がかかる場合には、本来は若者の関心を高めた道具を定めるためには、政策の中身そのものについて多くの議論が起こることが望ましいんですけれども、行政側が個別の対応の中で個別の政策について何かこういった感じの事業を展開するという現実的に、またこれも難しいっていう実質するときには本当にそういうハードルがいくつか出てくるかと思えますけれども、やっぱり共同事業でやる上では、そういう難しいところをどう工夫をして越えられてるかっていうところが、この補助金事業が継続できるかっていうところにもかかってくるのかなと思うのはあります。ゴミの関係の事業についても、単に新たにポストじゃないやつですね。を使うっていうのも、普通通常であれば行政がこういうことをやるんだよって社会実験的に各家庭に無料配布する、あるいは一部補助をして配布しながら社会実験やるっていうのは多いんですけど、そうじゃなくて共同事業からスタートするんだよって言った場合には、そこの何か相乗効果が期待できるかどうか、単なる新しいことをやる上で試すんだろうとは違うことが何かあるのかなにかっていうことが求められると思いますし、空き家対策事業についても通常の冊子を作って啓発事業をやるっていうのはこれまでも何度も何度も行われてきたことですね、だからなかなか難しいそういった中で、市民団体あるいは市民が一部コーディネーター的な役割を町の中で恒常的に信頼感、コーディネーターと信頼関係、信頼おける人がいかにコーディネートできるかっていうところまず関わってるかと思えますけれども、そういった形で市民団体さんが役割を担うことで、行政が各単年度事業で行う

啓発事業を行うそういう制度に則った事業を行うのとは違う形での応募事業展開がいかにか
共同でできるかっていうところですね。そういうところをぜひ、お互いに新たに、今回事業
計画の中で工夫をしたところプラス初めの一步部門さんも含めてですね。

さらに開始の時点あるいはやりながら工夫工夫、模索模索を一緒になって議論を重ねて展
開していただけたらいいかな。だから報告会ときにはですね、事業計画では事業計
画で示したことは必ずやらなきゃいけないですよ。これはもう約束事ですから、それをや
った上で、さらにパワーアップした形で、こんなふうに工夫してバージョンアップしたもの
が、プラスアルファできたよっていうような相乗効果が報告会の中でぜひ示していただ
けると、すごく今回の御提案事業も将来可能性があるし、この補助事業が継続していける可
能性があるかなというふうに思っております。

皆さんどうもありがとうございました。頑張ってください。

【谷口審査員】

はい皆さんありがとうございました。先ほどもおっしゃいましたこと重ねるんですけども、
実は市民活動団体にとって助成金をもらうって、結構自分たちの活動に制約を加えること
が不自由になるっていう。

それでも助成金をもらうことの意義は何か意味は何かということは、ぜひとも考えてみて
ください。私は意味があるというふうに思っています。それはやっぱりこういった助成金
を受けながら活動することによって、行政ではできないことは何だ、逆に市民活動団体だか
らこそできることは何かということと一方で、逆に市民活動団体ではできないことは行政
がやらなければいけないということとをですね、お互い認識する場であり、そしてそれこそが
共同ですとか協働というような言葉を使って単に一緒にやればいいんでしょみたいな、そ
ういった話ではないっていうことが協働の本質的なことだっていうのをぜひとも考えてく
ださい。

この活動を通しながらお互いこれ市民活動団体も育つし、行政も育つ互いに育ち合うとい
うことがこの事業の意義だと思っておりますので 1 年間行政とともに皆さん頑張ってください。
ありがとうございました。

【三島審査員】

皆さん今日はお疲れ様でした。今日来て嬉しかったのは、あの研修で皆さんでこう考えた防
災ソングっていうのが形になったなみたいなことがあって、先ほど谷口審査員の方か
ら、あの市民でしかできないことは何かっていうふうに言ったんですけども、何かそうい
うふうに防災という課題に対して、ちょっと違うアプローチでみんなの心を動かしてい
くっていうようなことは、あの市民活動のパワーの一つなので、初めの一步の中で、パートの
話だとかマッチングだとかそういうのは出ましたけれども、そういう皆さんがこう思っ
ている武器だとか、あの力で持ってそういうことが動かせると素晴らしいなと思います。

でも同時にやり取りであったように、その思いつきだとか得意だけでいくんじゃないかって、ステップ 0 っていうんですかね、まずはみんなでその防災のこと、何が目的かっていうなことを、今一度考えてみようよってというようなところがちゃんと自分たちの事業の中で考えられているのかってというようなことを、今一度ちょっと見つめ直すと、もっと目的に向かって効果的な事業っていうのが見えてくるんじゃないかなと思います。それから、複数の団体で結構他の団体とこういう部分一緒にやっていくんだよってというような提案があって、それもなんか瀬戸市素晴らしいなっていうふうに思ったんですけども、あの連絡会など連絡会やセンターがあって、そういう横の繋がりがあるっていうようなこと。それで初めの一步を踏み出していくっていうことは、効果的な事業をやる上でも、それから今後活動を持続していくっていう意味でも、とても大事なことだと思いますので、そこは大切にしていだければと思います。

共同の方なんですけれども、あの三つ課題は違うんですが、やっぱりその市民の意識を変えてそれを行動変容までに結びつけるっていうところでは三つとも共通するものがあったと思うんですけども、その場合二つのことを考えなきゃいけないかなと思っていて、まず今それができていないかっていうような原因分析をするっていうようなことと、それからそれとあの重ね合わせることになると思うんですけどもまず理解をして、それからちょっとそのどうしようかなと思ってるところに後押しをして、そしてその行動に移ったときにそれがボードに結びつくように伴走していくっていうようなプロセスとか流れっていうのをどういうふうに丁寧に保安でいくかっていうようなことが重要かなっていうようなことを思います。それは、対象となる人にとって重要だっていうことが一つと、それから皆さんが提案した切り口に合う人と合わない人といたりするっていうようなときにそこに乗ってきにくい人っていうのは、次どんな方法があるんだろうとか、今回そこに乗ってきてくれた人が例えば伝えてになって広げる役割にならななの、なれないだろうかだとか、そういうようなことはあの市民活動のパワーでもっていろいろ工夫ができる部分かなというふうに思いますのでそんな取り組みももう失敗もあってもいいと思いますので皆さんからまたご報告が聞けるっていうようなところを楽しみにしたいと思います。

今日はどうもありがとうございました。

【三矢審査員】

僕自身は今回初めてこの助成金の審査員としてお邪魔しております、以前何年か前に僕菱野団地の取り組みで、瀬戸に来てまして、今回久しぶりに来たっていう感じなんですけども、そういう意味では愛知県内のいくつかの市町村のこういったまち作りだとか市民活動助成金にお邪魔してまして、すごく町の個性が出るなって思ってます。ある町ではすごい貧困化みたいなね、子供の貧困みたいなことにかかなり真摯に向き合う市民の方々がいらっしゃったりだとか、あとベトナムの方々が最近多いような地区があったりとか、いろいろあるらしいんですよ。そんなわけで、町それぞれが抱えている課題だとか状況ってのはすごい

違うし、だからこそ取り組みも変わってくるんですね。実際にこういった助成金の審査の場にいろいろエントリーされる皆さんが、香りがすごい違うなって思って今日はそれにまず驚いたということと、でも一方で瀬戸ならではのポテンシャルをすごい感じたなっていうそういうひとときでした。

そういう意味では僕が言いたいのはまさに今言ったことなんですけども、瀬戸じゃないとできないこととか、瀬戸の中でもペケペケ地区何々小学校区じゃないとできないことみたいな、そういうオリジナルな解決方法を模索することがすごく大事ですねっていうのを僕はなんか応援の言葉として残したくて。今どきですね、僕ね 3 年前から大学の先生やってまして、学生たちもね、なんかいろいろ書かせると生成 AI かなみたいな、なんか浅い浅い内容のないものをちょっと見させられて本当に頭にくるとたまにあるけど、そういうのをそうさせないというか、ちゃんと考える学生作りを、僕としては一生懸命やってる部分なんですけども、もちろんその生成 AI によって様々な世界中のとかね、日本中のいろんな英知も転がってるはずなんで、使ったらいかんとは言いませんし、使っていいことも山ほどあると思ってそれはそれで全然ご活用いただいて、でも一方で、瀬戸の方とどのぐらい知っとなやね。Google の Gemini がどんだけ知っとなねんね。何かそういうマイクロソフトの何でしたっけ。チャッピーね。ChatGPT がどんだけ知っとなねんて話もありますし、しかもあの生成 AI が一番重要なところは、過去の情報をひたすら集めとるやんねあの人たちね。

今日の前に起きている瀬戸市っていうのは皆さんだけってそういうのがあるんで、そういう意味で今日の前の経済社会現象にもちゃんと目を見開くって話すと、他の町ではうまくいかないことも瀬戸だったらいける可能性もあるんで、そこはそういう考え方がいいかなと思っていて、ということで最後の僕のメッセージなんですけども、僕こういうまち作りを仕事で扱ってかれこれ 4 半世紀が経ちまして、すごく思ってるんで特に僕が一番熱を入れて頑張ってきた愛知県岡崎市なんですよ。岡崎もですね、一応今、結構いい町になったつもりっていうのがありまして、なんだったら 20 年ぐらい前は本当に悲惨。中心部が本当悲惨だったんでめちゃくちゃもうシャッター街だらけで本当に死んだ町になってたけれども、まあまあいいかって楽しいまちになったと思ってまして。そういうことで、いろんなところから、あの人に来るといろいろ話すじゃないかな、なんて岡崎はこんなにうまくいったんですかみたいな時があってああだこうだ喋っていやそれは岡崎だからできますよねみたいな、なんかそういうなんて一生懸命頑張ってるのになんていうか、ケチつけられた印象があるっていう要素でっていうことがさっきの話で僕は繋がってまして、そのやり方ってうちの町じゃできないよねっていう言葉の裏返し 그게それなんですよ。

それって岡崎だからできたんですよねみたいな。嫌味、たまに言われるけど、でもそれはそこにへこたれてると街は良くなんないってことを僕は言いたい。要するに他の町でうまくいかないっていうものを瀬戸だったらうまくいくって絶対あるはずなんで、この町でこそ、何かアプローチというか、可能性っていうもの信じ続けるってことをぜひですね、こだわっていただいて頑張っていたいただきたいと思います。以上でございます。ありがとうございます。

ました。